

IPO銘柄 ABEJA (5574・グロース)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件（上限PER）	主幹事証券
5574	100株	公募：70.00万株 売出：55.00万株（OA18.75万株）	1,450円～1,550円 （38.0倍）	野村證券



AI開発を支援する「ABEJA Platform」を提供

■事業内容

DX（デジタルトランスフォーメーション）プラットフォーム「ABEJA Platform」を基盤に、顧客企業のDXを総合的に支援するデジタルプラットフォーム事業を展開。EMS（受託製造サービス）に近い形態である点が特徴で、多種多様な業界・業態300社以上のDXを支援して培ったEMSにおける製造プロセスノウハウを生かし、顧客のニーズに合わせて、設計から開発、構築、運用までDXに必要な工程をデジタル版EMSとしてフルマネージドサービスで請け負う。これにより、顧客は最先端の製造機械と製造ノウハウを活用し、AIシステムを基幹業務に取り入れ、運用することが可能になる。「ABEJA Platform」の研究開発と並行して、パートナーとの連携により、セキュリティ、テクノロジー水準の向上にも継続的に取り組む。主なパートナーはNVIDIA、AWS、SOMPOホールディングス（8630）、ヒューリック（3003）、三菱商事（8058）およびインダストリー・ワンなど。デジタルプラットフォーム事業の単一セグメント。

■特徴

売上の80%程度を占めるトランスフォーメーション領域では、ほとんどがフロー型契約。長期間にわたる計画的なプロセスとなるため、売上高ベースで91.8%（22年8月期）が継続顧客となっている。オペレーション領域は、顧客企業に提供する汎用的な仕組み、サービスに応じたストック型の継続収入が主な収入。大口顧客のアップセル率は100%で、平均単価上昇率は203.1%と取引の大口化と継続化から売上高を着実に積み上げていく安定的な収益構造となっている。

アナリストコメント

■定量分析

23年8月期の非連結経常利益は3億6,600万円を計画する。前期実績は1億8,100万円の赤字だった。DX市場の拡大に大きな恩恵を受け、「ABEJA Platform」を基盤に企業のデジタルトランスフォーメーション推進を支援することで安定した事業拡大となっている。

■定性分析

人気のあるDX関連銘柄。業績が急拡大し、一気に黒字浮上するタイミングだけに、成長イメージも抱きやすい。IPOマーケットはゴールデンウィーク休みで、同社が1カ月半ぶりの案件ということもあり、投資家の関心が高まりそうだ。

■需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は22億円程度。グロース市場に上場する案件としては荷もたれ感のある規模だが、人気業種ということで十分に吸収可能とみる。なお、既存株主に掛かるロックアップ条項は公開価格の1.5倍で解除される条件。

（小泉 健太）

■類似企業

ABEJA (5574・グロース)

予想PER 38.0倍
（仮条件上限）

エクサウィザーズ(4259・グロース)

予想PER 一倍

Ridge-i(5572・グロース)

予想PER 102.4倍

■引受証券

野村證券、SBI証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、みずほ証券、楽天証券、マネックス証券、松井証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常損益 (百万円)	前年比 (%)	最終損益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
21年8月期(実績)	1,259	21.1	-259	赤縮	-350	赤縮	-65.5	0.00
22年8月期(実績)	1,978	57.1	-181	赤縮	-196	赤縮	-41.2	0.00
23年8月期(会社予想)	2,767	39.9	366	黒転	320	黒転	40.7	0.00

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
21年8月期	7,711,400	2,378	1,985	3,114	-876.9	83.4	—
22年8月期	7,711,400	2,159	1,793	100	232.0	82.8	—

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	岡田 陽介	1,708,100	17.76
2	SOMPO Light Vortex	1,693,500	17.61
3	ヒューリック	432,945	4.50
4	インスパイア・インベストメント	430,400	4.47
5	外木 直樹	355,000	3.69
6	富松 圭介	354,155	3.68
7	SBI AI&Blockchain投資 事業有限責任組合	347,200	3.61
7	SBI Ventures Two	347,200	3.61
9	コタエル信託	332,000	3.45
10	社NTTドコモ	326,100	3.39

経営陣

役職	氏名
代表取締役CEO	岡田 陽介
代表取締役COO	小間 基裕
取締役CFO	英 一樹
取締役	田中 邦裕
取締役	麻野 耕司
取締役	的野 仁
常勤監査役	桃原 隼一
監査役	清水 琢磨
監査役	青山 正明

ウェルスアドバイザーIPOレポートの読み方

特 徴

ウェルスアドバイザーIPO（※1）レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、ウェルスアドバイザーが位置する中立的な第三者としての立場からIPOに関する情報を提供いたします。ブックビルディング（※2）が始まる前にレポートを提供することにより、IPOへの参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。ウェルスアドバイザーIPOレポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間などIPO日程のほか、ウェルスアドバイザーの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

- ※1 IPO（Initial Public Offering）：新規株式公開。
- ※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げてPERを併記いたします。PERの水準は初値の参考指標として有効です。

本資料のご留意事項

- ・本資料は投資判断の参考としての情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。銘柄の選択、投資判断の最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- ・本資料は、SBI証券が、ウエルスアドバイザー株式会社が信頼できると判断して作成したレポートを有償で提供を受けておりますが、その正確性、安全性等について保証するものではありません。本資料に掲載された意見は、作成日における判断であり、予告なしに変更される場合があります。
- ・本資料の著作権、知的所有権等一切の権利はウエルスアドバイザー株式会社に帰属しますので、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

手数料およびリスク等について

国内株式取引の手数料

- ・株式取引にあたっては、所定の手数料がかかります（手数料はお客様の取引コース、取引チャネル、取引プランや売買代金等により異なることから記載しておりません）。詳しくは、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は上場有価証券等書面等をご確認ください。

国内株式取引のリスク情報について

- ・国内株式の取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- ・信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失が発生する可能性を有しています。
- ・信用取引の対象となっている株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、その損失の額が、差入れた委託保証金額を上回るおそれがあります。

留意点

- ・SBI証券が保有する株式等や主幹事担当会社の重要な開示事項（利益相反関係等）についてはSBI証券WEBサイト（http://search.sbisecc.co.jp/v2/popwin/info/home/pop690_kaiji.html）をご確認ください。または、カスタマーサービスセンター（0120-104-214（携帯電話・PHSからは03-5562-7530））までお問い合わせください。
- ・取引コースや商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、ウェブサイト、等をよくご確認ください。または最寄の取扱店までお問い合わせください。
- ・最終的な投資判断は目論見書の内容をご確認ください。目論見書はSBI証券のホームページで入手いただけます。

商号等：株式会社SBI証券 金融商品取引業者 登録番号：関東財務局長（金商）第44号 加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
